

故 林 茂 人 口 移 動 部 長 を 悼 む

本研究所人口移動部長林茂氏は、昭和52年1月9日午前1時50分、肝硬変のため川崎市高津区の国家公務員共済組合虎ノ門分院で急逝された。痛恨の極みである。

昨年末、氏は体の不調を討え、念のための入院検査中の訃報だっただけに、われわれの驚きは大きい。御遺族に対し深く哀悼の意を表するとともに、謹んで故人の御冥福を祈る。

氏は明治38年広島県神辺町に生れ（享年71歳）昭和3年京大経済学部選科卒業、同18年入所、同25年調査部第一科長などを歴任されたあと、同47年より人口移動部長として活躍され、その間昭和49年には厚生省30年勤続表彰を受けられている。

氏の専門分野は人口の理論的、政策論的研究であるが、とくに長年陳頭に立って行なわれた農漁村実態調査の解析を通じ、農業人口変動論の研究に没頭され、昭和37年には農学博士の称号を得ている。

氏は人も知る温かな風格で後進の指導に熱心に当られた。しかし方法論については穏やかながら厳格であった。機関誌21編、年報20編、研究資料11編（共著を含む）に亘る遺稿を再読しても、改めて教えられる点が多い。

昭和48年には、その優れた学識と人に好かれる性格を買われ、人口問題審議会専門委員に就任すると同時に、第2回人口白書起草委の世話役として困難な任に当られた。翌年公刊された人口白書は、氏に負うところが少なくない。

このような立派な業績と献身に対し、逝去と同日付をもって、正四位に叙し（一級追陞）、勳四等旭日小綬章を授けられ、さらに同月17日、宮内庁を通じ陛下より祭葬料を賜わった。

今日、わが国の人口問題が一般の注目を浴び、またわが国の人口高齢化がますます問題を複雑にしているときに当り、氏のような有能熟達の研究者を失ったことは、単に本研究所ばかりか、わが国社会全体にとって、まことに手痛い打撃であるが、いまはただ故人の靈魂安かれと祈るほかはない。合掌。（青木尚雄記）

故 林 茂 部 長 の 略 歴 と 業 績

昭和52年1月9日肝硬変のため急逝された林茂技官は、人口問題研究所人口移動部長として人口問題の調査研究に関し顕著な業績を挙げるとともに、人口問題審議会専門委員の要職にあり、人口の理論的、政策論的研究における貢献が著しかった。

氏は、昭和18年1月厚生省研究所事務取扱として採用され、昭和23年4月研究官に任ぜられ、昭和25年9月調査部第1科長、昭和28年4月調査部第2科長、昭和35年4月研究部第2科長、昭和38年4月政策部政策科長、昭和47年5月人口移動部長の要職を歴任し、この間人口問題とくに農村の人口問題の理論的実証的研究にたずさわり多大の実績を挙げ、わが国における農村人口問題論に資する所があった。

また、人口問題研究所が実施した調査研究における功績も著しいものがあった。すなわち、昭和38年に行われた「労働人口移動実態調査」における農漁村の部の実地調査を自から立案実施して貴重な成果を挙げられたほか、さらに昭和44年「都市および農村における家族構成と就業形態の変化に関する調査」、昭和48年「生活実態からみた地域人口変動の要因に関する総合調査」等多くの先駆的な実態調査の企画、実施および分析にあたられた。

また、氏は、厚生大臣の諮問機関である人口問題審議会の学識経験者として専門委員に昭和48年6月任命され、人口問題及び人口対策の審議に参画され、わが国の人口対策に貢献した功績は著しかった。すなわち昭和45年4月に発表されたわが国で二回目の人口白書「日本人の動向」の起草委員会の責任者として、企

画、執筆、編纂を行い、昭和34年6月に発表された人口白書とともに、貴重な白書を完成させた功績は多大である。

昭和48年4月財団法人人口問題研究会理事、昭和51年4月同会評議員を兼ね、わが国の民間団体としての人口問題の解決に資するため、諸般の調査および研究の進展に寄与した功績は著しいものがあった。

ここに故林茂部長の略歴と主要著作目録をそえ、その功績と業績をたたえる次第である。歿後、叙位・叙勲による正四位、勲四等に叙せられ、旭日小綬章を授けられた。

略 歴

明治38年11月1日広島市において林嘉三郎氏の次男として出生

自大正13年4月	至 同 14年1月	士官候補生として軍隊に入営
自昭和18年1月31日	至 同 21年5月1日	厚生省研究所事務取扱
自昭和21年5月1日	至 同 23年4月1日	人口問題研究所事務取扱
自昭和23年4月1日	至 同 25年9月5日	人口問題研究所研究官
自昭和25年9月5日	至 同 28年4月1日	人口問題研究所調査部第一科長
自昭和28年4月1日	至 同 35年4月1日	人口問題研究所調査部第二科長
自昭和35年4月1日	至 同 38年4月1日	人口問題研究所研究部第二科長
自昭和38年4月1日	至 同 47年5月11日	人口問題研究所人口政策部政策科長
自昭和47年5月11日	至 同 52年1月9日	人口問題研究所人口移動部長
自昭和48年4月9日	至 同 51年4月8日	財団法人 人口問題研究会理事
自昭和48年6月5日	至 同 52年1月9日	人口問題審議会専門委員
自昭和51年4月9日	至 同 52年1月9日	財団法人 人口問題研究会評議員

業 績 目 録

1 『人口問題研究』に掲載のもの

論 文 題 目	<巻号：(発行年月)>
○Kinderreiche Familien und Versicherung ; Friedrich Zahn	4—6 : (昭18. 6)
○農業人口適正化の指標	6—2 : (昭25. 9)
○農業の構造的進化と農業人口	7—1 : (昭26. 5)
○開拓政策と人口問題	7—2 : (昭26. 9)
○商品作物地帯における農村人口の実態分析	7—4 : (昭27. 3)
○出生率高低の社会的要因に関する一考察	9—3・4 : (昭29. 3)
○農林省の臨時農業基本調査(昭30. 2)結果の概要について	6 4 : (昭31. 5)
○機械化農村における人口収容の形態	6 9 : (昭32. 10)
○家族の続柄別にみた農業と兼業従事状況の考察	7 9 : (昭35. 6)
○農業近代化と農業人口	8 6 : (昭37. 12)
○農家労働力の流出と後継者確定の形態	9 1 : (昭39. 6)
○農家労働力の流入形態——その実態と問題点——	9 7 : (昭41. 1)
○経済成長と農漁業人口の変動	9 9 : (昭41. 8)
○特集、日本人の構造と変動—Ⅰ—Ⅳ再生産力 Ⅳ再生産力に関する 見通しと問題点	1 0 1 : (昭42. 2)
○最近における農家労働力流出構造の変貌とその問題	1 0 5 : (昭43. 1)

- 特集, 日本の人口問題 産業と雇用からみた今日の人口問題…………… 106 : (昭43. 4)
- 高度経済成長下における農村人口の変貌—構造激変期の実態と対策論的—考察…………… 116 : (昭45. 10)
- 農家年齢構造の変動と負担指数…………… 120 : (昭46. 10)
- 特集, 労働力人口の動向と問題点, 農家労働力人口の動向と問題点…………… 122 : (昭47. 4)
- 農村人口の構造的変動と現局面—近代農村の変貌を中心として—(共著)…………… 133 : (昭50. 1)
- 西ドイツにおける人口移動と人口分布(共著)…………… 138 : (昭51. 4)

2 『人口問題研究所年報』に掲載のもの

< 論 文 題 目 >	< 号 (発行年月) >
○戦後における農民的多産の諸型態……………	1 : (昭31. 10)
○機械化農村における農民の就労状況調査の結果について……………	2 : (昭32. 8)
○機械化農村における人口収容の形態……………	3 : (昭33. 8)
○一漁村における出生率の低下について……………	4 : (昭34. 10)
○戦後における農村人口の変動……………	5 : (昭36. 1)
○一機械化農村における人口の動向——生産力の発展段階と人口——……………	6 : (昭36. 11)
○農民の出生形態の変化について——差別出産力の転換——……………	7 : (昭37. 9)
○農家労働力の流出形態——高度経済成長下におけるその変貌——……………	8 : (昭38. 11)
○農家における後継者確定の形態について……………	9 : (昭39. 12)
○農家労働力の流出形態——地域類型的一考察——……………	10 : (昭40. 10)
○農業人口の変動と労働力の需給構造……………	11 : (昭41. 11)
○農家労働力の逆流とその問題……………	12 : (昭42. 10)
○最近における農家の出生率低下についての—考察……………	13 : (昭43. 12)
○農家労働力の枯渇とその問題……………	14 : (昭44. 10)
○最近における農家の出生率低下の問題……………	15 : (昭45. 12)
○福祉説理論とその妥当性について……………	16 : (昭46. 12)
○農家の年齢構造の変動と負担構造について (共著)……………	17 : (昭47. 12)
○老人問題——農村人口論の一齣——……………	18 : (昭48. 12)
○日本人口の動向と問題——人口白書におけるテレオロジー——……………	19 : (昭50. 3)
○西ドイツの静止人口——ひとつのモデルケース——……………	20 : (昭51. 3)

3 『人口問題研究所研究資料』として発表のもの

< 資 料 題 目 >	< 号 (発行年月) >
○リウメリン研究資料其の一……………	10 : (昭22. 1)
○過剰人口理論の史的展望その一 シスモンデイの人口論 (共著)……………	13 : (昭22. 8)
○リスト生産力の理論に於ける人口思想……………	28 : (昭23. 6)
○日本農業の最適人口試算に関する一資料……………	41 : (昭24. 7)
○農村人口収容力調査結果表—岡山県児島郡興除村—(昭和24年1月調査)……………	42 : (昭24. 7)
○開拓村における純粹入植者の定着性に関する一資料——岡山県児島郡藤田村 における農村人口収容力調査結果の中間報告——……………	46 : (昭24. 8)
○出生率高低の社会的要因に関する一考察——岡山県下における調査——……………	80 : (昭27. 10)
○戦後農村人口移動の地域的性格に関する一考察……………	95 : (昭29. 3)

- 戦後農村移動人口の移動地域別移動状況に関する分析…………… 101 : (昭30. 1)
- 戦後における農村人口の職業移動に関する一考察…………… 106 : (昭30. 3)
- 人口増加の圧迫と食糧供給 (共著) …………… 120 : (昭32. 8)

その他 (単行本)

- 人口の社会的移動と出生型態 昭和34「人口と雇用」中央経済社 (共著)
- 農業近代化と農業適度人口に関する一考察 昭和26. 8「農村人口問題研究 (第一集)」
農村人口問題研究会編 農林統計協会 (共著)
- 農業の構造的進化と農村人口 昭和29. 10「農村人口問題研究 (第三集)」農村人口問題
研究会編 農林統計協会 (共著)
- 農村人口の地位と構造 昭和34. 4「農村の人口」野尻重雄編 中央経済社 (共著)
- 日本農業の適度人口に関する一考察 昭和24「現下の人口問題(上巻)」厚生省人口問題
研究所編 国民教育社 (共著)
- 「農村人口変動論」昭和45 未来社